

SWEET HEART
FROM ME

僕は君のサンタクロース

— 恋する気持ちの伝え方 —

松本一起

IKKI MATSUMOTO

SWEET HEART
FROM ME

僕は君のサンタクロース

— 恋する気持ちの伝え方 —

松本一起

IKKI MATSUMOTO

大和書房

僕は君のサンタクロース
恋する気持ちの伝え方

1992年4月30日 第1刷発行

著者———松本一起

発行者———大和和明

発行所———大和書房

東京都文京区関口1-33-4

電話 03(3203)4511

振替 東京6-64227

印刷所———暁印刷

製本所———ナショナル製本

©1992 Ikki Matsumoto Printed in Japan

ISBN4-479-68051-9

乱丁・落丁本はお取替します

定価1100円

僕は君のサンタクロース



恋する気持ちの伝え方



CONTENTS

僕は君のサンタクロース

愛情と贈り物について

時間を贈ります—— 9

一枚の写真の中に二人の愛—— 15

花屋になった日—— 21

貴方へのプレゼントじゃない……の。—— 27

痴漢は許せない—— 33

シャツのお守り—— 39

上野の森に、二枚のチケットが咲いた—— 45

short story め ま い—— 51



逢っていないときの君も信じている

束縛と信頼について

恋人たちは、誤解が大好き?—— 67

逢いにきたよ……千代田区竹橋にて—— 73

割れた鏡—— 79

御免ね、でもこの辛さ半分あげる。—— 85

ケンカは家族とは無関係—— 91

その不倫、尊敬で続けて下さい—— 97

もっと広い世界へ—— 103

short story 愛されたい—— 109



恋する気持ちの伝え方

ときめきと優しさについて

午前八時半の起床—— 125

アンダー・ラインを贈ります—— 131

貴女の存在と、思いやる告白—— 137

大きな華を咲かせて欲しい—— 143

もうすぐ国立競技場だ！—— 149

子供言葉に拍手喝采—— 155

ラジオから愛を込めて—— 161

その苦しみは貴女だけではありません—— 167

short story わ た し—— 173

僕は君のサンタクロース——恋する気持ちの伝え方

装幀・鈴木成一

PRESENT

僕は君をサンタクロース

—愛情と贈り物について

何かをしてあげるとか、食事を作ってあげるとか、そういう行為とは少し違う愛情の表現として、プレゼントがある、と思います。

時間を贈ります

プレゼント、というと二人のイヴェントの日に贈るモノみたいに思われますが、それはただ気持ちをモノに代えたに過ぎません。本来プレゼントは、愛、気持ち、心、優しさなど人間にとって大切な幸せの分かちあいです。

「愛する人の幸せを感じることが、僕の幸せです」

去年、『君を愛することは得意でも』という本にも書きましたが、僕はいつもそう思っています。

僕はプレゼントの中でも一番いいものは、時間ではないか、と思います。

普段はあまり気づかないものですが、二人が逢う時間ほど貴重なものはないのではないかな。

お互いの生きている時間を、一つに重ねられることの幸せ。

学生生活であっても、社会生活であっても、逢いたいとき逢える二人の距離。

二人にとって一番大切なのは、間違いなく、時間だと思うのです。

好きな人が、病気になってしまったとき、どんなことがあっても駆けつけるはずです。何かの予定があつたとしても、きつと時間を作つてしまふでしょう。

相手に合わせたり、相手から求められたり、別々の生活をしている二人の間で、自分の時間をどのように贈るか、と考えたことはありますか。

「冗談じゃない、時間なんて贈るものじゃない」と言う人もいるでしょう。

しかし僕は一緒にいることが何よりも幸せ、と考える人間で、改めて考えてみると、二人が逢うための時間というのも二人が贈りあっているものだ、と思うようになったのです。

違うものを食べて、違う仕事をして、違う生活環境のなかにいて、違う友人を持って、

違う趣味を持って、違う個性を持って、違う性別。

そんな二人が同じ時間に、違う時間を持ち寄って一つに重なる。

これは考えただけでも、とても大きなテーマだ、と思いました。

愛するからこそ、自分の貴重な時間を何度も贈れるのです。

逢いたくない、というのは同じ時間を重ねたくない、ということの証明ではないか。

好きな人と過ごす時間は何よりも幸せで、美味しい食事も楽しいドライブも、二人の一つの時間があってこそその結果。

一緒に行く旅行は楽しいけれど、それよりも一緒に時間を贈り贈られる幸せを、もつと感じたいな、と僕は今思っています。

好きな人に、こんなプレゼントもいいかも知れません。

「君に今から、二十四時間プレゼントする」

でも相手から、私は三時間しか贈り返せない、と言われても落ち込まないで。

これは、ジョーク。

僕たちは、逢っていることの大切さをときどき忘れるから、つまらないことでケンカをしてしまうのかも知れません。

逢っていることこそ、同じ時間の分かちあい。

お互いが持ち寄った大切な時間の上で、相手を傷つけたり哀しませたり。

そしてせっかく贈りあつた時間をときとして無残に引き裂いてしまう無謀。

彼は約束の時間に間に合うように、朝から仕事を必死にこなしてきた。

同僚や上司が昼休みをとっている間も書類を書き続けてきた。

彼女は大学時代の仲間との食事会も、ずっと断り続けてきた。

付き合いが悪いと言われてきたけれど、彼に逢いたい一心で約束の日になった。

そんなお互いには見えない時間の確保。

そんなふうにしてせっかく逢つたのに、何か些細なことで感情がもつれてしまった。

大体ケンカなんて、後から思えばつまらないことが原因になっているはずです。

まあ、許せないこともあります、多くはミクロの決死圏。

小さなことで、お互いが言葉のナイフと沈黙で傷つけあうものです。

仲直り出来れば幸いですが、そのまま離れ離れになってしまう場合も少なくないはず。この本を読んでいる人の中に、そんな経験がある人はいませんか。

いたら、挙手して下さい。

そしてその手を自分の胸に当てて、何て自分は愚かだったのか、と反省して下さい。

貴方も相手の人も、贈られた時間を無にしてみましたのです。

指輪とか服とか、キーホルダーとかライターはあんなに大切にしたのに、相手の人生の何分の一か分かりませんが、貴重な時間を傷つけてしまったのです。

時間にはカタチがないために、暴力をふるっていることに気づかなかったのでしょう。そんな風に考えると、今度逢うときに、すごく大切に思えませんか。

時間の中には想い出、という心の映像がいつぱい描かれていきます。

逆に誤解や嫉妬、という心の憎悪も沸々と煮えたぎっていきます。

♪愛する人の幸せ♪をいつでも思えば、♪愛する人の贈ってくれた時間♪が何よりも

素晴らしいプレゼントで、ましてやその時間の上で相手を傷つけようなんて気持ちになるはずがありません。

同じ時間に違う時間を贈り贈られて、二人で一つの愛を育ててゆく幸せの難しさを、今日まで乗り越えてきたのです。

もし貴方がそれに気づかないで、過去に失敗があったのなら、次はもう大丈夫です。相手から贈られる時間の、深い意味をきつと抱きしめられるはずです。

もう失敗しません、僕が保証します。

貴方と逢うために愛する人が作って贈ってくれた、その時間は何よりも、貴方の幸せを願う相手の人の愛なのです。

絶対、無駄にしてはいけません。

億千の人から選ばれた、二人だけの時間は何処にもありません。